

一五八〇	天正八年
一五八一	天正九年
一五八九	天正十七年
〃	〃
〃	〃
一五九〇	天正十八年
〃	〃
〃	〃
一五九一	天正十九年
一五九二／九五	文禄中
一五九三	文禄二年
一五九四	文禄三年
一五九五	文禄四年
〃	〃
一五九六	慶長の頃
一六一三	慶長二年
一五九七	慶長二年
一五九八	慶長三年

郡奉行所を中荒井、戸の口、小荒井、野尻の四カ所におく。

荒井万五郎安土城に行つて信長に謁する。

下荒井の宝寿院、伊達政宗来攻の兵火にかかり、後に宝順ここに移ると伝える。

下荒井の覚蔵院に宥雄が来て住む。

葦名氏滅ぶ、下荒井蓮華寺の末寺福聚山養泉院を、宥寛が田山村に移す。

館の観音も伊達の兵火にかかる。

小池貞道、郷士米塚又吉の食客となつて来住後に中新田を開く。

豊臣秀吉会津に来るといふ。蒲生氏郷会津へ封じると若松城と改む。

蒲生氏郷蓮華寺十三世宥明に再び飯豊山の道路を開きさくさせる。

今和泉長泉寺を豪円草創すると伝える。

下野の永福寺に頼円住む。

秀吉会津領検地、一回七十三万五千石、再検地九二万石。

宮袋本休寺に空鏡住む。

氏郷京都に豊ずる。

蒲生氏蓮華寺宥明の功を認め、飯豊山一の戸村薬師寺の別当とする。

金屋願行寺に円寿住む。

鷲林延命山西福寺、地頭荒川大炊介某が創立。

宥興が住み後に宥宝が住む。五人組の高札できる。

蒲生秀行宇都宮へ、上杉景勝会津へ来封、大割元、小割元の制をおく。